

# 「なぜ」を追求する高等学校世界史の授業実践

## —「問いの構造図」を用いた探究の深化—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（社会）

近藤 有貴

本実践研究では、「問いの構造図」を用いて授業開発、実践を行い、歴史的  
事象を説明することができる生徒の育成、問いを解決するために生徒が資料を  
活用する授業を目指した。また、「問いの構造図」を用いた授業実践の実践上  
の課題を示し、その解決策を提示することも目的とした。

4つの実践を通して、「問いの構造図」を用いた授業を行うことによって、  
生徒は歴史的事象を自ら説明できるようになることがあらためて明らかになっ  
た。また、問いと問いを結ぶものとして、生徒の疑問、教師の説明、教師と生  
徒の対話、生徒の予想、資料との対話、生徒同士の対話の6つがあることが明  
らかになった。しかし、教師の説明では問いと問いに連続性が生まれにくい。  
そのため「問いの構造図」を用いた授業では、教師は生徒の考えを生かし、問  
いが連続するようにファシリテートすることで、探究型の学習が可能となり、  
生徒は概念的知識を獲得するようになる。